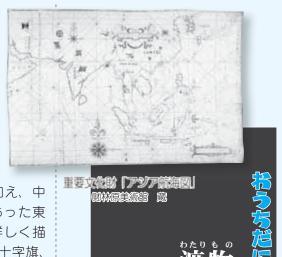
写真の地図、何の地図だ と思いますか?「アジア航 海図」と言って、ポルトガ ル製の地図を元に製作され た日本独自の航海図です。 この地図は桃山時代に製作 され、17世紀、朱印船貿 易に活用されたと考えられ ています。

地名には邦訳名を書き加え、中 国や、日本人の渡航先であった東 南アジア諸国周辺は特に詳しく描 かれています。よく見ると十字旗、 新月旗、ポルトガル国旗がみえま す。十字旗はキリスト教、新月旗 はイスラームを表し、当時の宗教 圏がわかります。こうした地図を 手に、各地の大名は異国との貿易 を進め、商人達は大海原へとくり 出して行ったことでしょう。

「渡物」とは、土地から土地、人 から人へと伝わったもの、舶来品



を意味し、12世紀ごろには使われ ていた言葉です。渡来の文化、舶 来品、「渡物」の持つ意味合いは時 代により異なり、交流という形は 決して一様ではありませんでした。 政治的なやりとりであったり、争

鳥取・対外交流の歴史

いをともなっていたり、時には偶然 に漂着したり、人々はさまざまな形 で異なる文化に触れていました。

本展覧会では、古代から近世に至 るまで、鳥取を中心とした「渡物」 を取り上げます。考古資料、絵図、 文書などの資料をとおして、その時 代の背景にせまります。

(やまびこ館学芸員 田鍬美紀)



鳥取・対外交流の歴史

と き 7月22日(土)~9月3日(日) 午前9時~午後5時

入館料 一般 500 円

(小・中・高校生、70歳以上は無料)

ところ やまびこ館 特別展示室

※7月4日(火)~7日(金)は、館内 くん蒸のため臨時休館します。

■問い合わせ先 やまびこ館 上町88 **(**0857) 23-2140



■問い合わせ先 さじアストロパーク 佐治町高山1071-1 (20858) 89-1011

ぜったいわかる!? 七夕の星の見つけ方

「七夕には、おりひめ星とひこ星を 見たい」という人のために、今回は 七夕の星の見つけ方をご紹介します。 梅雨で晴れにくいこともありますが、 ぜひ探してみてください。

- ①七夕の日の夜9時ごろ、晴れていた ら空を見上げる(晴れていなかった ら、ここで終わり。残念!)。
- ②月を見つける (満月前の明るい月が見えます)。
- ③月を正面にして立つ。
- ④そこから左に90度回る(これで、ほぼ東を向いている でとはなります)。
- ⑤正面の高さ60度のところを見る(真上が高さ90度です から、その半分のもう少し上)。
- ⑥近くに明るめの星があれば、それが「おりひめ星」。
- ⑦そこから、ななめ右下のほうにず一つと下がる。
- ⑧高さ30度くらいのところにある星が「ひこ星」。 どうですか?なお、このワザは今年の七夕の日以外は 使えませんので、あしからず。

こうさいひる を 佐治天文台長 香西洋樹の「空の向こうの物語」

Vol.8 七夕

ベトナムに伝わるお話です。ヤーデ王の娘チュク= ヌは天の川のほとりで機を織っていました。また、ヌ ング=ランという牧童が川向こうで羊の群れの番をし ていました。やがて、若い2人は深い恋仲になりヤ ーデ王に結婚の許しを願い出ました。王は、2人の 決心の固いことを知り、7月を除いていつも自分たち の仕事に精を出すことを条件に結婚を許しました。

ところが2人は幸福に酔いしれて王様との約束を 忘れてしまい、広い大空を歩き回りました。王様はそ れを見てすっかり腹をたて、2人に天の川の両側に 別れて暮らすように命令。こうして2人は7月だけ会 うことを許されたのでした。

人々が語るところによると、7月というのは、鳥た ちが大地を離れる月で、鳥たちは天の川へ飛んで行 き、2人のために天の川に橋を架けてやるのだそう です。チュク=ヌはその橋を渡ってヌング=ランのとこ ろへ駆けて行き、会えたことを幸せに思い大声で泣き、 別れるときが来ると悲しみのあまり泣くのだそうです。 こうして、7月は雨の多い月になるのだそうです。

